

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態	必修		

教科書	教育出版 書道 I	副教材等	
-----	-----------	------	--

1 学習の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方をはたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

①書の表現方法や形式、多様性について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。

②書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

③主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとらえて心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 身に付けてほしい力

○	学びの価値を重んじる思考力	○	あきらめずに最後までやり通す忍耐力
	規律やルールを守り、目標を追求する行動力	○	多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	- 書の表現方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 - 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価の方法	- 活動の様子 - 提出作品 - 作品ファイル - レポート - ワークシート		

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- 書道の作品制作では、大きく「臨書」と「創作」の2つの活動に分けられます。
- 「臨書」活動では、古典を鑑賞した時の第一印象を大事にして、字形構成や線質・点画・用筆の特徴を自ら分析しながら、作品制作します。他の生徒の古典のとらえ方も参考にしながら更に書き込みます。
- 「創作」活動では、臨書から得た古典の持つ趣や線質・字形・表現技法などを駆使して、自らが選んだ字句を自らが考えた表現意図で作品制作します。それぞれの感性を大事にしながら批評コメントも参考に更に書き込みます。
- どんなに上手にできたつもりでも、これで完成という終着点はありません。常に自己表現技法を高めるため、とことん追求する姿勢や諦めない忍耐力が毎時間の授業で求められます。共に学び合いましょう。

年間授業計画

	月	単元	学習内容・目標(到達点)	評価資料・方法	評価の観点		
					①	②	③
前期	4	○ガイダンス	・書の特質や学習の全体像を把握する。 ・用具・用材について理解する。 ・姿勢や執筆方法・用筆法を知る。				
	5	○楷書の学習① ・賀蘭汗造像記	・書体の変遷や拓本についての理解を図る。 ・様々な楷書の古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直感的に捉え、作品の価値や根拠について考える。	ワークシート 作品	○	○	○
	6	○楷書の学習② ・九成宮醴泉銘／孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序	・代表的な楷書古典を鑑賞し、作者や時代背景などの知的理解を図る。	ワークシート 作品	○	○	○
	7	○行書の学習 ・行書の特徴 ・蘭亭序／祭姪稿	・字形の特徴と用筆・運筆との関わりから捉え、	ワークシート 作品	○	○	○
	8	・風信帖／三筆三跡の書					
	9						
	10	○漢字仮名交じりの書① ・輝く言葉を書く ・古典の特徴を生かした作品制作	・言葉との出会い ・臨書活動をととして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につける。	ワークシート 作品	○	○	○
	11	○篆書の学習 ・泰山刻石 ○篆刻の学習 ・漢字一字印の制作	・篆書の学習は篆刻と関連づけて指導	ワークシート 作品	○	○	○
	12	・仮名の成立と発達／種類 ・姿勢／執筆／用具／用材 ・基本的な筆遣い／平仮名／変体仮名／連綿	・我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を感じ、その成立過程や仮名の種類字源について理解する ・平仮名の単体、変体仮名、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。	ワークシート 作品	○	○	○
後期	1	○漢字仮名交じりの書② ・言葉表現する ・感動や思いを表現しよう ・作品の表現意図／名筆に学ぶ表現の工夫	・自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定する。 ・意図に基づいて構想する。	ワークシート 作品	○	○	○
	2	・用具用材の工夫／全体構成の工夫 ・漢字仮名交じり書の成立とその書の変遷					
	3	○生活の中に書を飾ろう ・表装による作品効果	・1年間を振り返り、作品をまとめる。	ワークシート 作品	○	○	○

* 評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度

教科	美術	科目	美術 I	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態	必修		

教科書	高校生の美術1(日文)	副教材等	鉛筆、油絵の具セット、キャンバスボード、ホワイトブック
-----	-------------	------	-----------------------------

1 学習の目標

・ 道具の使い方や美術に関する知識を身につけ、表現の幅を広げる。 ・ 自分自身と向き合い、自分なりの表現を模索する。 ・ 美術作品への造詣を深め、物を大切に扱う心を養う。

2 身に付けてほしい力

☐ 学びの価値を重んじる思考力		あきらめずに最後までやり通す忍耐力
☐ 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	☐	多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	指示された用法、技法を理解し、実践できる。	身につけた知識・技能を応用して自分なりに創意工夫を凝らした表現ができる。	正しい服装、私語をしない等基本的な授業マナーができていくこと。単元毎に評価のポイントを伝えるので、それを意識して授業を受ける。
評価の方法	作品制作の様子を観察。できあがった作品からも評価する。また、鑑賞の際の感想も評価に取り入れる。	提出された作品の表現をみて評価する。	授業マナー等授業への取り組みを毎時間観察し評価する。 また、出席率や忘れ物等も加味する。

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

始業のチャイムが鳴る前に授業で使用する道具の準備を済ませてください。一回の授業で終わる内容もあるので極力休まないことが望ましいです。授業に必要な持ち物等の連絡は事前に行います。余計な持ち物の持ち込みはできません。正しい服装で授業に臨むようにしてください。
--

年間授業計画

	月	単元	学習内容・目標(到達点)	評価資料・方法	評価の観点		
					①	②	③
前期	4	オリエンテーション	鉛筆の基本的な扱い方を身につける	演習プリント	○	○	
	5	スプーンに写った自画像	鉛筆による自画像制作を通じて、自分の内面と向き合いつつ表現に結びつける	作品	○	○	○
	6	自画像（油彩）	油絵の具の扱い方を身につける	授業の様子	○		○
	7		混色について理解し、適切に扱う	授業の様子	○		
	8		自己観察、自己理解を深めて表現する	作品	○	○	○
後期	9	鑑賞	お互いの作品の良さを見つめ、芸術作品への造詣を深める	感想文		○	
	10	美術史	古今東西の芸術を歴史的な背景から知り、理解を深める	授業の様子			○
	11	絵本制作	絵本の構成、ストーリー、デザインなどを総合的にデザインし、制作する	授業の様子		○	○
	12		動画制作的な考え方を身につける	作品	○	○	○
	1						
	2						
	3	アニメーション入門	日本のアニメ制作現場について知る	授業の様子			○

* 評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態	必修		

教科書	MOUSA I (教育芸術社)	副教材等	RECORDER LIBRARY
-----	-----------------	------	------------------

1 学習の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化についての理解を深める資質・能力を次のとおり育成する。

①広い視野で音楽をとらえ、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につける。(知識・技能)

②音楽が持つ良さや美しさを自己のイメージを持って表現を創意工夫することができる。(思考力・判断力・表現力)

③主体的、協働的に音楽文化に親しみ、愛好する心情を育てるとともに音楽によって生活や社会をより明るく豊かなものにしていく態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

2 身に付けてほしい力

○ 学びの価値を重んじる思考力	○ あきらめずに最後までやり通す忍耐力
○ 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	○ 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	- 多様な音楽や音楽の背景について理解できる。 - 創意工夫を生かした音楽表現をするための技術を身につけ創造的に表現できる。	- 自分の意図や思いを持ち音楽表現を工夫することができる。 - 根拠を持って音楽を聴くことができる。	音楽の諸活動・文化に興味関心を持ち、主体的・協働的に音楽を親しもうとすることができる。
評価の方法	授業での取り組み 実技テスト 課題提出 小テスト レポート		

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

・音楽の授業では、歌唱・器楽・創作・鑑賞の各表現活動を行います。

それぞれの表現活動を体得するためには地道な練習が必要です。はじめから「できない」「わからない」と決めつけず、意欲的に取り組み、積極的に授業に参加しましょう。

・特に予習は必要ありませんが、日常生活にある音楽に興味を持つようにしてみましょう。

・授業内で様々な楽器を使用しますが、取扱等注意の必要なものもありますので、きちんと話を聞きましょう。

音楽活動の中で得意なこと・不得意なことがあるのは問題ではありません。自分自身と向き合い、どうしたら音楽活動が楽しめるかをそれぞれが考えて欲しいと思います。音楽と楽しく関わることを忘れず、学習していきましょう。

年間授業計画

	月	単元	学習内容・目標(到達点)	評価資料・方法	評価の観点		
					①	②	③
前期	4	ガイダンス 歌唱 「校歌」 「イタリア歌曲」	校歌の歌唱を通して、ふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方ができる。校歌成立の背景や歌詞の意味について理解する。また、曲想を生かした表現と豊かな響きで歌うことができる。	ワークシート 実技テスト	○	○	○
	5	楽譜の読み方・書き方	音楽的な見方・考え方をするために必要な理論について理解することができる。	課題進捗状況 小テスト	○		○
	6	音楽鑑賞 ミュージカル	ミュージカルにおける音楽の役割や効果について理解することができる。	ワークシート		○	○
	7	リコーダーの基礎	リコーダーの正しい奏法を身に付け、楽曲にふさわし表現工夫することができる。	観察・聴取 課題進捗状況 実技テスト	○	○	○
	8 9	歌唱 「日本歌曲」	日本語の語感を生かした表現で歌唱することができる。 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり	観察・聴取 実技テスト	○	○	○
後期	10	リズムトレーニング ボディーパーカッション	表現意図をもって創作表現を創意工夫しアンサンブルすることができる。	実技テスト 観察・聴取 課題進捗状況	○	○	○
	11	リコーダー合奏	合奏を通して、他者との協力して演奏することができる。	観察・聴取 課題進捗状況 実技発表		○	○
	12	宗教音楽	文化的・歴史的背景と音楽の関わり感じながら演奏することができる	ワークシート 観察・聴取 実技発表	○		○
	1	日本の伝統音楽	日本の伝統音楽について、その種類とそれぞれの特徴を理解し、演奏することができる。	ワークシート 観察・聴取 実技テスト	○	○	○
	2	ピアノ曲鑑賞	鍵盤楽器の歴史や、ピアノによるさまざまな演奏表現を味わい、それぞれの曲の特徴やよさを知り、意見交換することができる。	ワークシート		○	○
	3	ジャズに親しもう	ジャズの特徴や歴史について知り、演奏を聴き比べてよさや美しさを味わうことができる。	ワークシート	○		○

* 評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度